

桂島宣弘教授 略歴 主要研究業績

学 歴

- 一九五三年一〇月一日 東京都杉並区に生
- 一九七二年三月 岩手県立盛岡第一高等学校卒業
- 一九七七年四月 東北大学工学部をへて立命館大学文学部史学科日本史学専攻編入学（三回生）
- 一九七九年三月 同卒業
- 一九七九年四月 立命館大学大学院文学研究科史学専攻日本史専修博士課程前期課程入学
- 一九八一年三月 同修了（文修五五五号）
- 一九八一年四月 同博士課程後期課程入学
- 一九八四年三月 同単位取得退学
- 一九九四年三月 立命館大学より博士（文学）の学位を授与される（博乙一五四号）

職 歴

- 一九八一年四月 大阪府立汎愛高等学校非常勤講師（一九八三年三月まで）
- 一九八三年四月 日ノ本学園短期大学（現姫路日ノ本短期大学）専任講師
- 一九八八年四月 同助教授
- 一九九五年三月 同退職

この間、同短期大学の図書館長（一九八九年四月～一九九二年三月、一九九四年四月～一九九五年三月）、学生部長（一九九二年四月～一九九三年三月）などを歴任

また、立命館大学、大阪大学、同大学院、光華女子大学に出講

一九九五年四月 立命館大学文学部日本史学専攻助教授

一九九七年四月 同教授 現在に至る

- 立命館大学衣笠新展開事務局委員（一九九八年三月まで）
- 一九九八年四月 立命館大学文学部調査委員長（現副学部長）（一九九九年三月まで）
- 二〇〇〇年二月 北京日本学研究所センター派遣教授（中国、二〇〇〇年七月まで）
- 二〇〇〇年九月 立命館大学文学部改革委員長（二〇〇四年三月まで）
- 二〇〇一年五月 立命館大学新世紀学園構想委員会基礎会議委員長（二〇〇二年三月まで）
- 二〇〇四年四月 立命館大学文学部教学担当副学部長（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇六年九月 東西大学校客員教授（韓国、二〇〇七年八月まで）
- 二〇〇九年九月 全北大学校交換教授（韓国、一ヶ月）
- 二〇一〇年四月 立命館大学文学部長・学校法人立命館理事（二〇一四年三月まで）
- 立命館大学コリア研究センター長（二〇一一年三月まで）
- 二〇一四年九月 高麗大学校客員教授（韓国、二〇一五年八月まで）
- 二〇一五年九月 立命館大学史資料センター長（二〇一七年三月まで）
- 二〇一八年六月 全州大学校HK+事業団共同研究員（韓国）現在に至る
- この間、神戸市外国語大学、筑波女子大学（リレー講義）、千葉大学（リレー講義）、大阪大学、同大学院、東北大学（集中講義）、同大学院（集中講義）、北京日本学研究所センター（中国、集中講義）に出講

学会役員

日本史研究会庶務委員、同編集委員、日本思想史学会評議員（現）、同総務委員、同編集委員、同大会委員、同大会委員長、同事務局長、「宗教と社会」学会常任委員、日本経済思想史学会世話人、日本思想史研究会顧問（現）、東アジア思想文化研究会代表（現）、東アジア宗教文化学会（本部韓国）副会長などを歴任

主要研究業績

単 著

- 『幕末民衆思想の研究―幕末国学と民衆宗教―』文理閣、一九九二年四月
『思想史の十九世紀―他者としての徳川日本―』ぺりかん社、一九九九年五月
『増補改訂版 幕末民衆思想の研究―幕末国学と民衆宗教―』文理閣、二〇〇五年五月
『自他認識の思想史―日本ナショナリズムの生成と東アジア―』有志舎、二〇〇八年二月
『東アジア自他認識の思想史 (동아시아 자타인식의 사상사)』論衡 (韓国)、二〇〇九年六月
『思想史で読む史学概論』文理閣、二〇一九年一月
『从徳川到明治…自他认识思想史』中国社会科学出版社 (中国)、二〇一九年三月 (予定)

共編著 (共編者として明記されているもの)

- 『「日本型」社会論の射程―「帝国化」する世界の中で―』文理閣、二〇〇五年三月 (大平祐一氏と共編)
『留学生のための日本事情入門』文理閣、二〇〇五年四月 (監修)
『日本事情入門』多楽園 (韓国)、二〇〇八年三月 (金津日出美氏と共著)
『改訂版』留学生のための日本事情入門』文理閣、二〇一七年四月 (金津日出美氏と共編)
『日本概況』大連理工大学出版社 (中国)、二〇一八年三月 (金津日出美氏と共著)
『東アジア・遭遇する知と日本』文理閣、二〇一九年三月 (予定)

共著・雑誌論文

- 「序説国学思想史研究の課題」『日本史論叢』八号、日本史論叢会、一九八〇年四月
「幕末国学と「外ツ国」」『立命館史学』三号、立命館史学会、一九八二年三月
「思想史研究の視角」『日本思想史研究会会報』二号、日本思想史研究会、一九八二年一〇月

- 「復古神道と民衆宗教」『日ノ本学園短大紀要』一―一七号、日ノ本学園短大（現姫路日ノ本短大、以下同）、一九八三年二月
- 「民衆宗教における神信仰と信仰共同体」『日ノ本学園短大紀要』一―二二号、日ノ本学園短大、一九八四年二月
- 「生田萬の蹶起の論理」『日ノ本学園短大紀要』一―三三号、日ノ本学園短大、一九八五年二月
- 「幕末国学の転回と大国学」山尾幸久編『歴史における政治と民衆』所収、日本史論叢会、一九八六年一月
- 「後期水戸学の思想的考察に向けて」『日ノ本学園短大紀要』一―四四号、日ノ本学園短大、一九八六年二月
- 「近代天皇制前夜における神秩序をめぐる相剋」菅孝行編『叢論日本天皇制（二）天皇制の理論と歴史』柘植書房、一九八七年九月
- 「明治維新と津和野国学」『季刊文化財』六〇号、島根県教育委員会、一九八八年三月
- 「民衆宗教における民俗的蹉跌」岩井忠熊編『近代日本社会と天皇制』柏書房、一九八八年五月
- 「復古神道と民俗信仰についての覚書」『日本思想史研究会会報』七号、日本思想史研究会、一九八八年一〇月
- 「Before and After Xday」『日ノ本学園短大紀要』一―七号、日ノ本学園短大、一九九〇年一月
- 「明治二〇年代の民衆宗教」馬原鉄男ほか編『近代天皇制国家の社会統合』文理閣、一九九一年五月
- 「幕末国学の転回と鈴木雅之の思想」『立命館文学』五二―一五号、立命館大学人文学会、一九九一年六月
- 「幕末国学と民衆宗教」『日本思想史学』二―四号、日本思想史学会、一九九二年九月
- 「明治初年の国学者の神秩序構想」馬原鉄男ほか編『天皇制国家の統合と支配』文理閣、一九九二年十一月
- 「幕末国学における「比考」の転回」『立命館大学人文研紀要』五九号、立命館大学人文研、一九九三年一〇月
- 「金光教の神観念とその変容」『日ノ本学園短大紀要』二―二二号、日ノ本学園短大、一九九三年十二月
- 「アジア主義・何処から何処へ」丸山圭三郎ほか編『岩波講座現代思想（二四）近代／反近代』岩波書店、一九九四年四月
- 「幕末国学像の再検討のために」『日本思想史学』二―二六号、日本思想史学会、一九九四年九月
- 「幕末国学の転回と佐藤信淵の思想」衣笠安喜編『近世思想史研究の現在』思文閣出版、一九九五年四月
- 「「病氣」と「直し」の言説」『江戸の思想』創刊号、ぺりかん社、一九九五年六月
- 「幕末における「自他認識」」『金光教学』三―三五号、金光教学研究所、一九九五年九月
- 「「華夷」思想の解体と国学的「自己」像の生成」『江戸の思想』四号、ぺりかん社、一九九六年七月
- 「民衆宗教への眼差し」『歴史評論』五六〇号、歴史科学協議会、一九九六年十一月
- 「平田派国学の「読書」とその言説」『江戸の思想』五号、ぺりかん社、一九九六年十二月
- 「雨森芳洲再考」『立命館文学』五五―一五号、立命館大学人文学会、一九九七年十二月
- 「教派神道の成立」『江戸の思想』七号、ぺりかん社、一九九七年十二月

- 「近代国史学の成立」『江戸の思想』八号、ぺりかん社、一九九八年三月
- 「一国思想史学の成立」西川長夫ほか編『世紀転換期の国際秩序と国民文化の形成』柏書房、一九九九年二月
- 「他者」としての民衆へ」『江戸の思想』一〇号、ぺりかん社、一九九九年一〇月
- 「宣長の「外部」『思想』九三二号、岩波書店、二〇〇一年一月
- 「華夷思想の解体と自他認識の変容」島蘭進ほか編『岩波講座近代日本の文化史(二) コスモロジーの「近世」』岩波書店、二〇〇一年一月
- 「近代天皇制イデオロギーの思想過程」安丸良夫ほか編『岩波講座天皇と王権を考える(四) 宗教と権威』岩波書店、二〇〇二年五月
- 「洋学思想史の一考察」『日本思想史研究会会報』二〇号、日本思想史研究会、二〇〇三年一月
- 「病氣直し」から「教説の時代」へ」『環』一三三号、藤原書店、二〇〇三年五月
- 「民衆宗教の宗教化・神道化過程」『日本史研究』五〇〇号、日本史研究会、二〇〇四年四月
- 「近代宗教制度の暴力」末木文美士ほか編『岩波講座宗教(八) 暴力』岩波書店、二〇〇四年九月
- 「近代における〈宗教化〉体験」高橋文博ほか編『近代日本の成立』ナカニシヤ出版、二〇〇五年一月
- 「国学へのまなざしと伝統の「創造」『歴史評論』六五九号、歴史科学協議会、二〇〇五年三月
- 「近世(朝鮮王朝後期・徳川日本)における日朝自他認識の転回」大平祐一ほか編『日本型社会』論の射程』文理閣、二〇〇五年三月
- 「東アジアの近代と「翻訳」『立命館文学』六〇五号、立命館大学人文学会、二〇〇八年三月
- 「国家神道論という言説」『新しい歴史学のために』二六九号、京都民科歴史部会、二〇〇八年一〇月
- 「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」『季刊日本思想史』七六号(責任編集)、ぺりかん社、二〇一〇年六月
- 「トランスナショナル・ヒストリーという視座」『新しい歴史学のために』二七七号、京都民科歴史部会、二〇一〇年一〇月
- 「明清王朝交替と東アジアの思想史」『東アジアの思想と文化』四号、東アジア思想文化研究会、二〇一二年三月
- 「「近世帝国」の解体と十九世紀前半期の思想動向」田尻祐一郎ほか編『日本思想史講座(三) 近世』ぺりかん社、二〇一二年一月
- 「宗教概念と国家神道論」尹海東ほか編『植民地朝鮮と宗教』三元社、二〇一三年一月
- 「日本思想史学の「作法」とその臨界」黒住真ほか編『岩波講座日本の思想(一)「日本」と日本思想』岩波書店、二〇一三年四月
- 「姜沆と藤原惺窩」荒野泰典ほか編『日本の対外関係(五) 地球的世界の成立』吉川弘文館、二〇一三年八月
- 「Japanese Nationalism and East Asia」『Journal of Cultural Interaction in East Asia』五号、東アジア文化交渉学会、二〇一四年三月
- 「迷信・淫祠・邪教」林淳ほか編『シリーズ日本人と宗教(一六) 他者と境界』春秋社、二〇一五年七月
- 「天皇制の過去と現在」『日本思想史研究会会報』三四号、日本思想史研究会、二〇一八年三月

韓国・中国・台湾掲載論文

- 「幕末에 있어서의「自他認識」」『한국종교연구회회보』第六号、韓国宗教文化研究所（韓国）、一九九五年二月
- 「近代における〈宗教化〉体験」『大巡思想論叢』第一八輯、大真大学校附設大巡思想學術院（韓国）、二〇〇四年一二月
- 「조선왕조 후기·토쿠가와 일본의 한·일 자타 인식 (自他認識) 의 전회 (転回)」『日本近代学研究』第一〇輯、韓国日本近代学会（韓国）、二〇〇五年五月
- 「19 세기에 있어서 한·일 사상사의 일고찰」『南冥学研究』第一九輯、慶尚大学校慶南文化研究院南冥学研究所（韓国）、二〇〇五年六月
- 「東アジアの近代と「翻訳」」『人文研究』第五一号、嶺南大学校人文科学研究所（韓国）、二〇〇六年一二月
- 「日本近代天皇制と「民衆」」『人文論叢』第二二集二号、慶星大学校人文科学研究所（韓国）、二〇〇七年八月
- 「現代日本のナショナリズムと「教科書問題」」『東アジア文化研究』第一三輯、暎園大学校アジア文化研究所（韓国）、二〇〇七年一二月
- 「姜沆の日本観」『全北史学』第三四号、全北史学会（韓国）、二〇〇九年四月
- 「日本近代天皇制と民衆思想」『人間と文化研究』第一五号、東義大学校人文社会研究所（韓国）、二〇〇九年一二月
- 「植民地朝鮮における歴史編纂と近代学術知」『日語日文学』第四七輯、大韓日語日文学会（韓国）、二〇一〇年八月
- 「跨國界的歴史與東亞」『台湾東亞文明研究學刊』第九卷第一期、国立台湾大学（台湾）、二〇一二年六月
- 「근세 제국 의 해체와 19세기 전반기의 사상동향」『日本近代学研究』第三九輯、韓国日本近代学会（韓国）、二〇一三年二月
- 「跨國界的歴史與東亞―从日韓思想史的視域思考」『南開日本研究二〇一二』南開大学日本研究院（中国）、二〇一三年四月
- 「종교 개념과 국가신도론―, 제국 Ⅱ 식민지, 를 중심으로」尹海東ほか編『종교와 식민지 근대』책과함께（韓国）、二〇一三年一〇月
- 「Japanese Nationalism and the Concept of East Asia」『Hallym Academy of Sciences』一、翰林大学校（韓国）、二〇一三年一二月
- 「現代日本国民主義与教科書問題」張憲生編『東亞近世歴史和思想的地平線』暨南大学出版社（中国）、二〇一四年七月
- 「東亞文明圈中的日本思想、日本儒学」『深圳大学学报』人民社会科学版第一五八号、深圳大学（中国）、二〇一六年三月
- 「東亞文明圈中的日本思想、日本儒学」劉岳兵編『日本儒学与思想史研究』天津人民出版社（中国）、二〇一六年九月

書評

- 庄司吉之助『近世民衆思想の研究』『日本史研究』二二三号、日本史研究会、一九八〇年五月（衣笠安喜氏と共著）
- 藤谷俊雄『神道信仰と民衆・天皇制』『日本史研究』二三八号、日本史研究会、一九八二年六月
- 小沢浩『生き神の思想史』『日本史研究』三三五号、日本史研究会、一九九〇年七月

- 辻本雅史『近世教育思想史の研究』『史林』七三一五号、京都大学史学研究会、一九九〇年九月（藤本雅彦氏と共著）
- 子安宣邦『事件』としての徂徠学』『日本史研究』三五七号、日本史研究会、一九九二年五月
- 阪本是丸『国家神道形成過程の研究』『思想』八四一号、岩波書店、一九九四年七月
- 羽賀祥二『明治維新と宗教』『立命館文学』五四五号、立命館大学人文学会、一九九六年六月
- 安丸良夫『方法』としての思想史』『日本思想史学』三〇号、日本思想史学会、一九九八年九月
- 若尾政希『太平記』読みの時代』『図書新聞』二四五二号、図書新聞社、一九九九年九月
- 張憲生『岡熊臣』『図書新聞』二六〇五号、図書新聞社、二〇〇二年一月
- 磯前順一『近代日本の宗教言説とその系譜』『読書人』二四九〇号、読書人、二〇〇三年六月
- （新刊紹介）衣笠安喜『思想史と文化史の間』『立命館史学』二六号、立命館史学会、二〇〇五年一月
- 宮城公子『幕末期の思想と習俗』『日本思想史研究会会報』二三号、日本思想史研究会、二〇〇五年二月
- ジェームス・E・ケテラー『邪教・殉教の明治』『読書人』二六六一号、読書人、二〇〇六年一月
- 遠藤潤『平田国学と近世社会』『読書人』二七四六号、読書人、二〇〇八年七月
- 安丸良夫『文明化の経験』『南山宗教文化研究所所報』一八号、南山宗教文化研究所、二〇〇八年九月
- 藤田大誠『近代国学の研究』『宗教研究』三六〇号、日本宗教学会、二〇〇九年六月
- 樋口浩造『江戸』の批判的系譜学』『日本思想史学』四一号、日本思想史学会、二〇〇九年一月
- 福本和夫『日本ルネサンス史論』（著作集）第九卷』『読書人』二八二五号、読書人、二〇一〇年二月
- 安丸良夫・磯前順一編『安丸思想史への対論』『読書人』二八四七号、読書人、二〇一〇年七月
- 尹海東『植民地がつくった近代』『新しい歴史学のために』二九二号、京都民科歴史部会、二〇一八年六月

その他

- 「史料紹介 岡熊臣『学本論』」『立命館史学』四・六・七号、立命館史学会、一九八三年六月、一九八五年六月、一九八六年六月
- 「平田篤胤と豪農層」『週刊朝日百科日本の歴史』九一号、朝日新聞社、一九八八年一月
- 「幕末民衆宗教と農業技術をめぐる言説」『日本農書全集』六一卷「月報」、農村漁村文化協会、一九八四年二月
- 「横議・横行」の〈場〉として』『日本経済思想史研究会会報』五号、日本経済思想史研究会、一九九五年三月
- 「一九九九年 歴史学の現在」『鴨東通信』三六号、思文閣出版、一九九九年十二月

- 「北京通信第一報」第四報」『部落』七月号～一〇月号、部落問題研究所、二〇〇〇年七月～一〇月
- 「国民国家論と日本近代史研究」『QUEST』no.8、オルタ・フォーラムQ、二〇〇〇年七月
- 「北京で「民族」について考えたこと」『部落』一一月号、部落問題研究所、二〇〇〇年十一月
- 「子安宣邦『宣長問題』とは何か」の解説」ちくま学芸文庫、二〇〇〇年十二月
- 「金光大神との出会い」『府連だより』二五号、金光教大阪府連、二〇〇一年一〇月
- 「歴史叙述と「教科書問題」」『立命館土曜講座シリーズ』一一号、立命館大学人文研、二〇〇一年十二月
- 「近代との出会い」コメント」安丸良夫ほか編『宗教から東アジアの近代を問う』ぺりかん社、二〇〇二年四月
- 「平田篤胤―自称没後の門人」『国文学解釈と鑑賞』六七―九号、至文堂、二〇〇二年九月
- 「近代国学研究が隠蔽してきたもの」『神道宗教』一八六号、神道宗教学会、二〇〇二年四月
- 「民衆宗教研究―研究史雑考」『日本思想史学』三四号、日本思想史学会、二〇〇二年九月
- 「わが「学校」金光教教学研究」『金光教学』四四号、金光教教学研究、二〇〇四年九月
- 「東アジア人文学の可能性を求めて」『アリーナ』五号、中部大学国際人間学研究所、人間社、二〇〇八年三月
- 「清水教好君の遺稿について」『日本思想史研究会会報』別冊、日本思想史研究会、二〇〇八年二月
- 「福本和夫と「抜け参りの研究」」『福本和夫著作集』第三卷「月報」、こぶし書房、二〇〇八年十一月
- 「アジアの日本研究―韓国・中国を中心に」『日文研』四三号、国際日本文化研究センター、二〇〇九年九月
- 「近世京都の学問」『立命館大学京都文化講座七 京の公家と武家』白川書院、二〇一一年七月
- 「領土問題」を超える地平を求めて」『日本思想史研究会会報』二八号、日本思想史研究会、二〇一一年八月
- 「逆井孝仁先生を偲んで」『日本経済思想史研究』一四号、日本経済思想史学会、二〇一四年三月
- 「初代白神、今におわせば」『金光教のリバイバルへ』金光教大阪センター、二〇一六年四月
- 「国訳『宗教二関スル雑件綴』(一九〇六―一九〇九)の解題」圓光大学校宗教問題研究所(韓国)、二〇一六年九月
- 「絶望の淵から時代に切り込む思想史―安丸良夫氏を偲んで」『日本思想史学』四八号、日本思想史学会、二〇一六年一〇月

項目執筆した辞事典 (項目名は多数にわたるため省略、出版月は複数にまたがるため省略)

- 『大百科事典』平凡社、一九八二年、『日本史明解用語集』(共著)河合出版、一九九二年、『日本史大事典』平凡社、一九九二年、『神道事典』弘文堂、一九九四年、『日本歴史人物事典』朝日新聞社、一九九四年、『日本史広辞典』山川出版社、一九九七年、『日本歴史事典』小学館、二〇〇〇～二〇〇一

年、『岩波哲学思想辞典』（編集協力委員）岩波書店、一九九八年、『日本思想史辞典』（編集委員）ぺりかん社、二〇〇一年、『日本思想史辞典』山川出版社、二〇〇九年、『日本思想史事典』東京堂出版、二〇一三年

追悼文など（上記以外）

馬原鉄男「闘う立命館史学と馬原先生」『回想の馬原鉄男』文理閣、一九九三年七月

家根祥多「家根さん！また議論しましょう！」『ワインとマツカリと——家根祥多さん追悼文集』二〇〇二年四月

井上清「井上清先生追悼文」『井上清先生をしのぶ会』二〇〇二年九月

衣笠安喜「衣笠先生と出会ったときのことなど」『真如の鐘——衣笠安喜先生を偲んで』二〇〇三年一月

掛谷宰平「あの日」のことなど」『掛谷宰平先生追悼文集』二〇〇四年一月

清水教好「清水教好君を悼む」『日本思想史研究会会報』二五号、日本思想史研究会、二〇〇七年一二月

同「夢のごとくに」『古書店主のごとき眼光で——清水教好君追悼文集』二〇〇八年二月

石井芙桑雄「石井芙桑雄先生弔辞」『立命館文学』六二〇号、立命館人文学会、二〇一一年二月

なお、このほか『新修亀岡市史 本文編（二）』の一部、『立命館百年史（一）』の一部、『季刊日本思想史』『日本思想史研究会会報』『東アジアの思想と文化』『立命館文学』の序文類、「日本思想史学会大会委員長としての『日本思想史学』に掲載された大会シンポジウム趣旨説明文」「『日本歴史』の『はがき通信』」「アソシエ」の『月報』」「川西市生涯学習短期大学レフネックだより」への寄稿文」「朝日新聞」からの依頼原稿」「『金光新聞』への寄稿文」「『全北大新聞』（韓国）の講演文」「『東西大日本研究センター・ニューズレター（韓国）への寄稿文』」「『環球時報』（中国）の講演文」「大阪大学大学院文学研究科『年報』への外部評価文」「文学部長としての『大学マネジメント』『日経ビジネス』からの依頼原稿」「キャンパスアジア構想責任者としての『朝日新聞』への寄稿文」「立命館学園広報『UNITAS』への寄稿文」などを執筆したが、詳細は省略した。

学会報告・講演

「生田萬の思想について」日本思想史学会、皇學館大学、一九八〇年一〇月

「幕末国学と「外ツ国」」立命館史学会、立命館大学、一九八一年二月

「大國隆正の思想」日本思想史学会、東海大学、一九八三年一〇月

「民衆宗教における生活倫理」日本経済思想史研究会、立命館大学、一九九一年六月

- 「岡熊臣と津和野国学」大阪歴史学会、関西学院大学、一九九一年六月
- 「幕末国学と民衆宗教」日本思想史学会、大阪大学、一九九一年一〇月
- 「金光教の神観念とその変容」「宗教と社会」学会、明治大学、一九九三年六月
- 「幕末国学像の再検討のために」日本思想史学会、皇學館大学、一九九三年一月
- 「幕末における自・他認識」日韓宗教研究者交流シンポジウム、金光教教学研究所、一九九四年一〇月
- 「近世民衆思想史研究の方法的再検討」アジア学会（AAS）、ホノルル（アメリカ）、一九九六年四月
- 「近代という経験と「他者」イメージ」日韓宗教研究フォーラム、済州大学校（韓国）、一九九九年八月
- 「国民国家論と幕末国学研究」アジア・北アフリカ研究学会（ICANAS）、モントリオール（カナダ）、二〇〇〇年九月
- 「北京で「日本学」について考えたこと」立命館史学会、立命館大学、二〇〇〇年十一月
- 「国学者の天皇儀礼の構想」日韓宗教研究フォーラム、韓国精神文化研究院（韓国）、二〇〇一年八月
- 「国学研究の課題」神道宗教学会、國學院大学、二〇〇一年十二月
- 「国学へのまなざしと伝統の創造」歴史科学協議会、中京大学、二〇〇四年九月
- 「近世（朝鮮王朝後期・徳川日本）における日朝自他認識の転回」（招請講演）韓国日本近代学会、東亜大学校（韓国）、二〇〇四年一月
- 「近代社会形成期日本における「病氣直し」」国際宗教学史会議（IAHR）、品川プリンスホテル、二〇〇五年三月
- 「一国思想史学の臨界点」日本地域研究会、釜慶大学校（韓国）、二〇〇六年一〇月
- 「日本人の価値観という問い」韓国日本思想史学会、暁園大学校（韓国）、二〇〇七年五月
- 「東アジア人文学の可能性を求めて」（基調講演）日韓宗教研究フォーラム、浅口市金光公民館、二〇〇七年八月
- 「国家神道論という言説」京都民科歴史部会、京都薬科大学、二〇〇七年一月
- 「植民地朝鮮における他者表象」（長志珠絵・金津日出美・高吉嬉・沈熙燦と共同パネル報告）、日本思想史学会、東北大学、二〇〇九年一〇月
- 「一九世紀日本における民衆宗教の歴史的意義」仙&道教国際学会、高麗大学校（韓国）、二〇〇九年一〇月
- 「如来教関係史料と幕末民衆思想」（浅野美和子・神田秀雄・林淳・安丸良夫と共同セッション報告）「宗教と社会」学会、立命館大学、二〇一〇年六月
- 「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」韓国日本学連合会、南ソウル大学校（韓国）、二〇一〇年七月
- 「明清王朝交替と東アジアの思想史」東アジア文化交流学会、高麗大学校（韓国）、二〇一二年五月
- 「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」韓国日本思想史学会、淑明女子大学校（韓国）、二〇一二年七月
- 「近世帝国」の解体と徳川思想の動向」（基調講演）韓国日本近代学会、立命館大学、二〇一二年一月
- 「日本ナショナルリズムと東アジア」東アジア文化交流学会、香港城市大学（中国）、二〇一三年五月

- 「領土問題」を超える地平を求めて」（基調講演）韓国日本学会、嘉泉大学校（韓国）、二〇一三年八月
- 「日韓関係と歴史認識」韓国日語日文学会、韓国外国語大学校（韓国）、二〇一四年一〇月
- 「徳川日本における「国境」の認識過程」韓国日本史学会、高麗大学校（韓国）、二〇一五年九月
- 「日韓関係の現状をどう考えるか」（基調講演）大韓日語日文学会、新羅大学校（韓国）、二〇一五年十一月
- 「近世帝国」周辺部徳川日本の儒学・朱子学の動向」日本朱子学的伝承与创新學術研討会、厦門大学（中国）、二〇一八年六月

上記はいずれも大会報告である。学会・研究会などの例会報告は多岐にわたるため省略した。

大学・研究機関での報告・講演

- 「近代天皇制イデオロギーの現在」イースタン大学（アメリカ）、一九八九年九月
- 「一九世紀の民衆思想の展開」北京外国語大学日本学研究中心（中国）、二〇〇〇年四月
- 「一国思想史学の成立」中国社会科学院哲学研究院（中国）、二〇〇〇年六月
- 「日本現代史と教科書問題」東西大学校大学院日本地域研究科（韓国）、二〇〇三年一月
- 「一九世紀日韓思想史の一考察」慶尚大学校南冥学研究所（韓国）、二〇〇五年四月
- 「教科書問題と歴史家の責務」広東外語外贸大学（中国）、二〇〇五年十一月
- 「一国思想史学の成立」東西大学校日本研究センター（韓国）、二〇〇六年九月
- 「東アジアの近代と翻訳」嶺南大学校人文科学研究科（韓国）、二〇〇六年十二月
- 「近代日本のアジア主義者の自己認識」啓明大学校日本学科（韓国）、二〇〇七年三月
- 「民衆宗教史研究のメタヒストリー」ソウル大学校韓国宗教文化研究所（韓国）、二〇〇七年四月
- 「現代日本のナシヨナリズムと教科書問題」暎園大学校亜細亜文化研究所（韓国）、二〇〇七年五月
- 「近代日本天皇制と民衆」慶星大学校人文科学研究科（韓国）、二〇〇七年五月
- 「一国思想史学の成立」全北大学校韓国史学科（韓国）、二〇〇七年六月
- 「宗教概念と近代宗教」韓国学中央研究院（韓国）、二〇〇七年六月
- 「日本の国学―国学へのまなざしと「伝統」の創造」大連大学（中国）、二〇〇七年一〇月
- 「安丸良夫『文明化の経験』を読む」南山大学宗教文化研究所、二〇〇八年一月
- 「アジアの日本研究」国際日本文化研究センター、二〇〇八年一〇月

- 「一八〇一九世紀の日韓相互認識の転回」高麗大学校日本研究センター（韓国）、二〇〇九年六月
- 「現代日本のナショナリズムと教科書問題」全北大学校韓国史学科（韓国）、二〇〇九年九月
- 「民衆宗教の死生観と近代仏教」国際日本文化研究センター、二〇一〇年一月
- 「トランスナショナル・ヒストリーと東アジア」国立台湾大学人文社会高等研究院（台湾）、二〇一二年八月
- 「トランスナショナル・ヒストリーと東アジア」南開大学日本研究院（中国）、二〇一一年一月
- 「明清王朝交替と東アジアの思想史」立命館大学（台湾大学文学院・立命館大学文学部学術交流シンポジウム）、二〇一二年三月
- 「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」内蒙古大学外国語学院（中国）、二〇一二年八月
- 「東アジア「近世帝国」の民衆思想の動向」南開大学日本研究院（次世代学術フォーラム（中国））、二〇一三年三月
- 「日本ナショナリズムと東アジア概念」翰林大学校科学アカデミー（韓国）、二〇一三年六月
- 「近世帝国」の解体と一九世紀前半期の思想の動向」UBC（カナダ）、二〇一三年八月
- 「日本ナショナリズムと東アジア」暨南大学（中国）、二〇一三年一月
- 「近代日本における「子どもの発見」と東アジア」嘉泉大学校亜細亜文化研究所（韓国）、二〇一四年九月
- 「前近代の日韓の思想と公共性」漢陽大学校（韓国）、二〇一四年一月
- 「トランスナショナル・ヒストリーのために」高麗大学校日本研究センター（韓国）、二〇一五年一月
- 「近世公共空間」の解体と幕末徳川思想の動向」立命館大学（二〇一五ソウル・京都東アジア次世代国際学術大会）、二〇一五年一月
- 「病氣直し」とは何か」ソウル大学校韓国宗教文化研究所（韓国）、二〇一五年五月
- 「日本ナショナリズムと東アジア」国立政治大学外国語文学院（台湾）、二〇一五年五月
- 「東アジア文明圏の中の日本思想・日本儒学」南開大学日本研究院（中国）、二〇一五年七月
- 「近代日本のアジア主義」高麗大学校亜細亜問題研究所（韓国）、二〇一五年八月
- 「日中関係の現状と私」哈爾濱師範大学東語学院（二〇一五東北アジア歴史文化国際学術大会（中国））、二〇一五年九月
- 「日韓関係の現状と私」高麗大学校大学院中日語文学科（韓国）、二〇一五年九月
- 「現代日本の歴史認識」立命館大学コリア研究センター、二〇一五年二月
- 「近世帝国と琉球王朝の思想圏」高麗大学校民族文化研究院（韓国）、二〇一六年二月
- 「近代学術と植民地主義」漢陽大学校比較歴史文化研究所（韓国）、二〇一六年三月
- 「天皇制の過去と現在」忠北大学校大学院哲学科（韓国）、二〇一七年一月
- 「近世帝国」解体期の徳川思想」暨南大学（中国）、二〇一七年二月

- 「近代歴史学と実証主義の陥穽」立命館大学（東アジア史学思想史研究会シンポジウム）、二〇一八年一月
- 「日本天皇制の過去と現在」高麗大学大学院韓国史学科（韓国）、二〇一八年二月
- 「トランスナショナル・ヒストリーという視角」全州大学校韓国古典学研究所（韓国）、二〇一八年三月

講座・教育機関での講演

- 「明治維新と津和野国学」島根県津和野文化財講座、一九八七年十一月
- 「中江藤樹と雨森芳洲」立命館大学BKC土曜講座、一九九五年十二月
- 「幕末の近江」立命館大学BKC土曜講座、一九九六年一月
- 「石門心学与民衆宗教」心学明誠舎セミナー、一九九六年二月
- 「伊藤仁斎の「仁愛」の思想と京都町衆の世界」京都労働学校公開セミナー、一九九六年十一月
- 「国学的「自己」像の生成」心学明誠舎セミナー、一九九七年七月
- 「日本近世史研究の新視点」川西市生涯教育短期大学、一九九九年一〇・一一月
- 「近世の民衆」をめぐって」川西市生涯教育短期大学、二〇〇〇年九・一〇月
- 「華夷思想から考える―江戸知識人の公共空間」立命館大学土曜講座、二〇〇〇年一〇月
- 「循環する時間―徳川時代の歴史認識」阪神奈大学生涯学習ネット、二〇〇〇年十一月
- 「金光大神との出会い―歴史学徒としての」金光教大阪フォーラム、二〇〇一年八月
- 「歴史叙述と「教科書問題」」立命館大学土曜講座、二〇〇一年一〇月
- 「幕末を生きた人々に学ぶ」川西市生涯学習短期大学、二〇〇二年九・一〇月
- 「日本型という言説―日本思想史学の現場から」立命館大学土曜講座、二〇〇三年一一月
- 「幕末の民衆に学ぶ」尼崎市市民講座、二〇〇四年一月
- 「明治の人々に学ぶ」川西市生涯学習短期大学、二〇〇四年六月
- 「伊藤仁斎の「仁愛」の思想と近世京都の学問」八幡市立生涯学習センター、二〇〇六年七月
- 「近代天皇制と民衆」尼崎中央市民大学教養講座、二〇〇八年一月
- 「幕末京都の知識人たち」京都アスニー・アカデミー、二〇〇九年三月
- 「思想史研究との出会い」大学生協京都奈良地域センター読書カフェ、二〇〇九年十二月

- 「近世京都の学問と伊藤仁齋」京都・大阪文化講座、二〇一〇年五月
- 「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」北海道高等学校日本史教育研究会、二〇一〇年八月
- 「近世の学問都市京都」京都・大阪文化講座、二〇一二年七月
- 「初代白神今におわせば」金光教祖生誕二〇〇年記念シンポジウム、二〇一四年十二月
- 「戦前立命館史概観」立命館大学土曜講座、二〇一五年一〇月